

# 個人投資家のためのIRフォーラム2012

## 『包装システム事業概況と事業戦略』



包装システムの市場創造型トータルプランナー  
**ゼネラルパッカー株式会社**

経営企画室長 長谷川 克己

 **General Packer**  
The total planner of a packaging system

# 本日の内容

I. 会社概要

II. 包装システム事業概況

(当社の特徴)

III. 事業戦略

(中期経営計画ならびに業績動向)

---

# I. 会社概要

# 会社概要(2012年11月30日現在)

- 設立 1966年(創業 1961年)
- 資本金 251百万円
- 発行済株式数 8,994千株
- 売買単位 1,000株
- 決算期 7月末
- 事業内容 各種自動包装機の製造・販売  
(食品・化学品・健康食品・医療用品等の包装用機械・システム)
- 従業員数 123名(その他臨時雇用者19名)
- 事業所 本社・工場(愛知県)、東京営業部



代表取締役社長  
梅森 輝信

# 沿革

- 1961年 東陽商事(有)を設立
- 1962年 (株)ゼネラルパッカーを設立
- 1966年 東陽商事(有)をゼネラルパッカー販売(株)へ改称
- 1969年 ゼネラルパッカー販売(株)が(株)ゼネラルパッカーを  
吸収合併し、商号をゼネラルパッカー(株)と改称
- 1977年 本社工場を新設
- 1989年 本社工場に隣接して社屋(北館)を新設
- 2003年 **ジャスダック市場に上場**
- 2004年 本社工場南隣に社屋(南館)を新設
- 2006年 **平成17年度愛知ブランド企業に認定**
- 2007年 本社工場に隣接して工場(東館)を新設
- 2011年 **名古屋証券取引所市場第二部に上場**
- 2012年 **(株)ワイ・イー・データ(東証第2部)との資本業務提携**



Aichi  
Quality

認定番号214

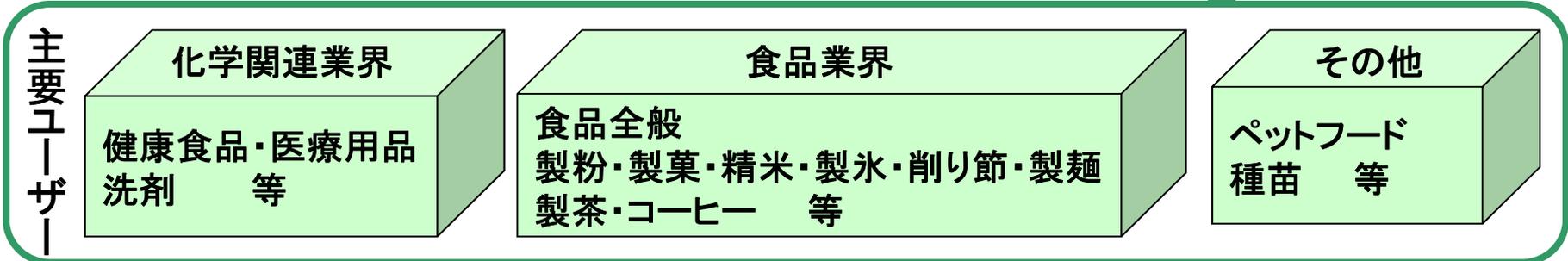
# 事業内容

当社

身近な商品の包装に、当社の機械が活躍しています。

包装機械・包装システム等を各ユーザーの工場等へ販売

高品質・高難易度の包装分野



病院

- 輸液バック
- カテーテル
- 粉末薬品

各店舗  
 スーパーマーケット  
 コンビニエンスストア  
 ドラッグストア  
 ホームセンター 等

消費者

\* 当社機械で包装されている主な袋詰商品例

- 小麦粉
- ふりかけ
- 花かつお
- パン粉
- ナッツ類
- ロックアイス
- 粉末茶
- お米



- スパゲティ
- ドリップコーヒー
- 肥料
- 野菜・花の種
- キャンディ
- 健康食品
- ペットフード
- 粉末洗剤

# 企業ビジョン

- 「社会・株主・顧客・取引先・従業員の全てに対し、誠実で透明性の高い経営を実践し、信頼され、支援される企業」の実現



---

## Ⅱ. 包装システム事業概況 (当社の特徴)

# 包装の役割と包装機械

包装は、私たちの生活に必要不可欠な存在です

## 【包装の役割】

包装によって、商品の安全・安心を提供

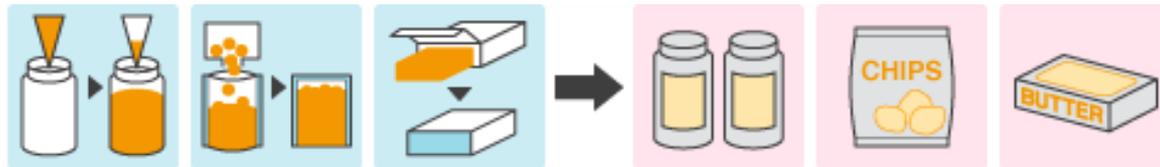
商品保護; 充填物の品質保持・衛生性を確保する

利便性; いつでも、どこでも持ち運び、消費することができる

流通効率; 包装によって、安全に、かつ効率よく商品を運搬・保管を可能にする

広告効果; 商品の情報伝達の媒体・商品価値を高める

## 【包装機械とは】



食料品、医薬品、化粧品、電気製品、機械部品等の商品を流通過程においてその価値や状態を保護するために、紙、プラスチック、アルミニウム、ガラス等々の包装材料や容器に高速かつ安全・衛生的に“包む”のが包装機械です。包装機械には、びん詰機械、かん詰機械、袋詰機械、箱詰機械等があります。

# 包装機械業界

単位:億円

機種別	生産高
<b>個装・内装機械</b>	<b>3,143</b>
包装用計量機	191
充てん機	371
びん詰機械	525
製袋充てん機	586
真空包装機	86
その他	1,384
<b>外装・荷造機械</b>	<b>688</b>
ケース詰機	120
その他	568
<b>合計</b>	<b>3,831</b>

需要先別構成比

- ・食品部門 50.6%
- ・化学部門 20.2%
- ・その他 19.3%
- ・輸出 9.9%

企業数 約420社(専門メーカー 約240社)

中小企業が約9割

主な上場企業

専門メーカー:東京自働機械製作所  
兼業メーカー:CKD、渋谷工業 等

袋詰用包装機

当社の主力包装機の区分

当社:包装機械の専門メーカー

■ドライ物(粉末・顆粒・固形物等)の包装機械・システムに特化

- ・高品質・高難易度の包装分野
- ・チャック付袋包装、ガス充填包装等

主な競合先(ロータリー式包装機メーカー)

- ・東洋自動機(非上場):レトルト物の包装が主力
- ・古川製作所(非上場):ウェット物・真空の包装が主力

(社)日本包装機械工業会

「包装機械及び荷造機械生産高統計」  
平成23年度実績

# 当社の事業

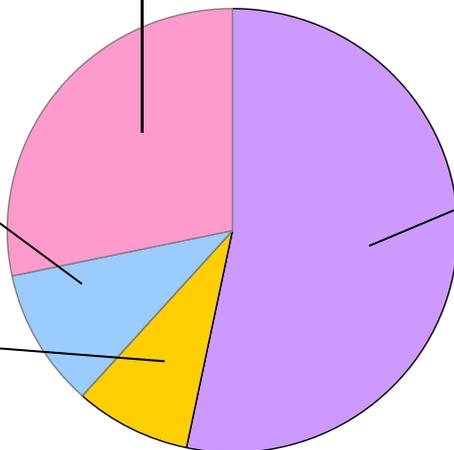
袋詰用自動包装機の売上高が約6割



保守消耗部品その他  
1,047百万円  
28.4%

包装関連機器等  
361百万円  
9.8%

製袋自動包装機  
316百万円  
8.6%



給袋自動包装機  
1,962百万円  
53.2%  
(ガス充填自動包装機  
含む)

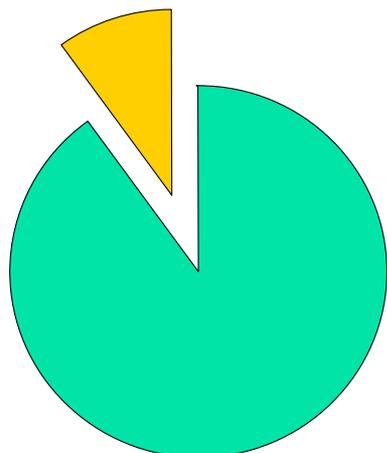
<2012/7期決算の状況>



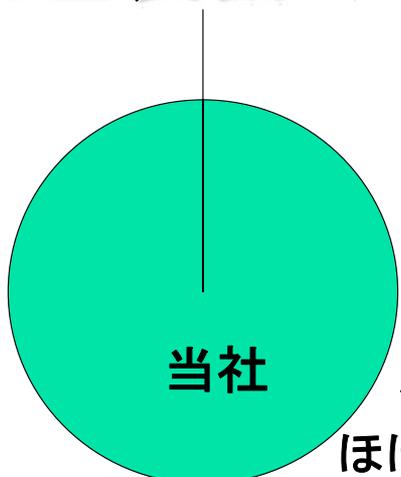
高機能・高価格機種が主力

# 多くの分野の袋詰用包装機でNo.1シェアを獲得

出所：当社推定

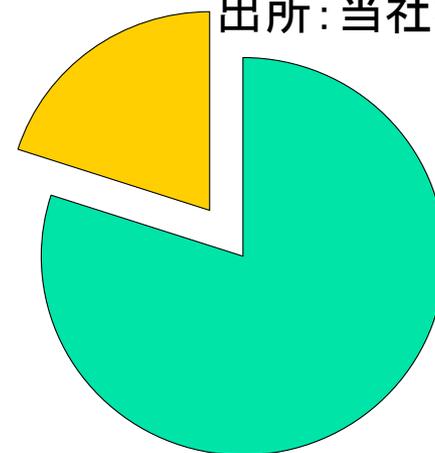


製粉

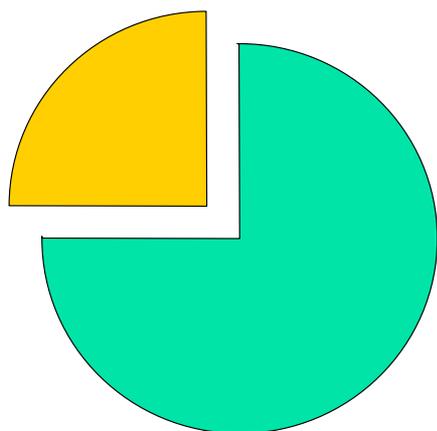


かつおミニパック

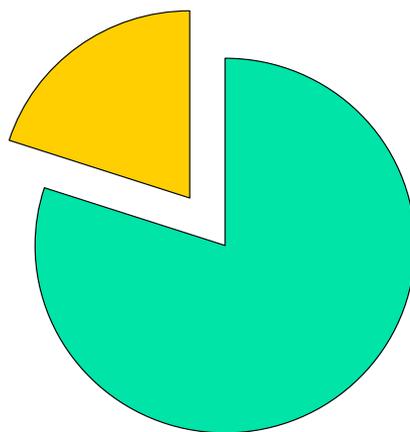
シェア  
ほぼ100%



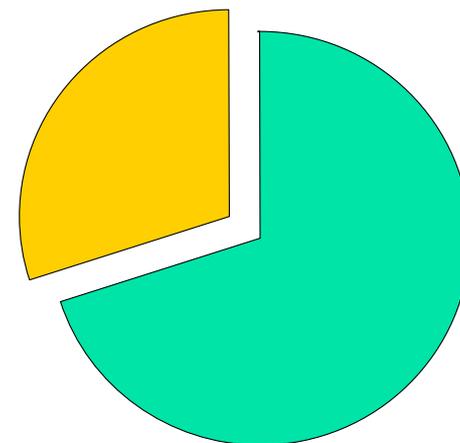
ロックアイス



ドリップ式コーヒー



精米



健康食品小袋

# 特徴－技術力

## ① 国内最高の高ガス置換技術を有する

■ 削り節用包装機、ナッツ類用包装機でトップシェア

風味の保持←不活性ガスを封入、酸素が無い状態へ

当社：高ガス置換型

⇒残存酸素濃度 0.5%以下

他社：簡易ガス置換型

⇒残存酸素濃度 2%以上



ガス充填システム  
搭載機種 of 拡大

他分野への展開

ペットフード用ガス充填包装機  
海外高級ペットフードメーカーの  
世界各地の工場へ納入  
(10カ国、29台)



# 特徴－技術力

## ②チャック付袋対応機種の豊富なラインナップ

### ■チャック付スタンドパウチ

対応機種(STタイプ)

#### ■給袋自動包装機

10機種

#### ■製袋自動包装機

4機種

キャンディ、グミ、健康食品、小麦粉、お茶、ペットフード等の包装

### ■チャック付製袋自動包装機

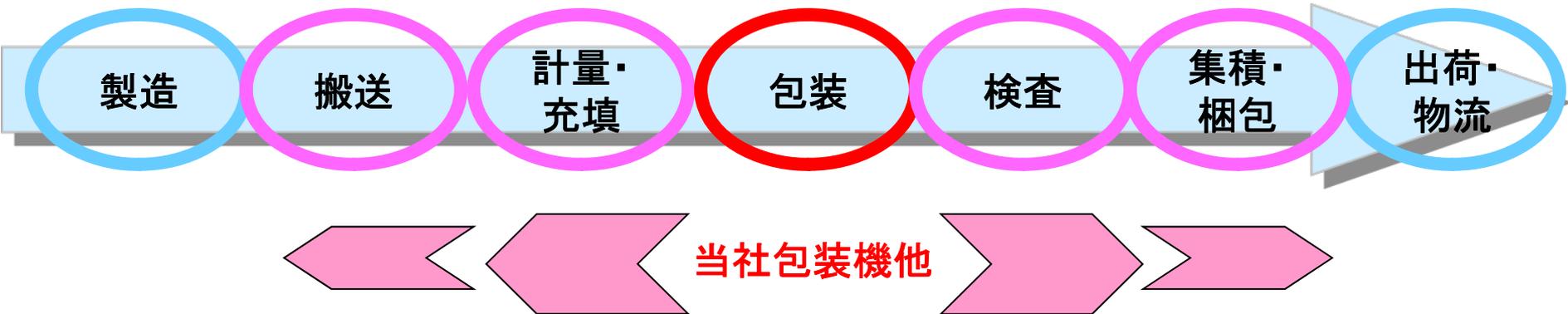
2機種

チャック付スタンドパウチ  
商品例



# 特徴－技術力

## ③包装システムのトータルプランニング



- 当社包装機をベースとしたトータルシステムの対応が可能
- 実績例：輸液バッグ包装システム  
ドリップ式コーヒー包装システム 等

# 特徴－技術力

## ④医薬品・医療機器の包装

### ■輸液バッグ包装システム

- ・ガス充填包装
- ・バッグの受取・搬送・挿入・包装

### ■医薬品包装例

- ・プラスチックアンプル
- ・錠剤(素錠・PTP包装品)
- ・粉体薬品 等

### ■医療機器包装例

- ・シリンジ
- ・輸液チューブ
- ・医療用針 等



輸液ソフトバッグ



素錠



プラスチックアンプル

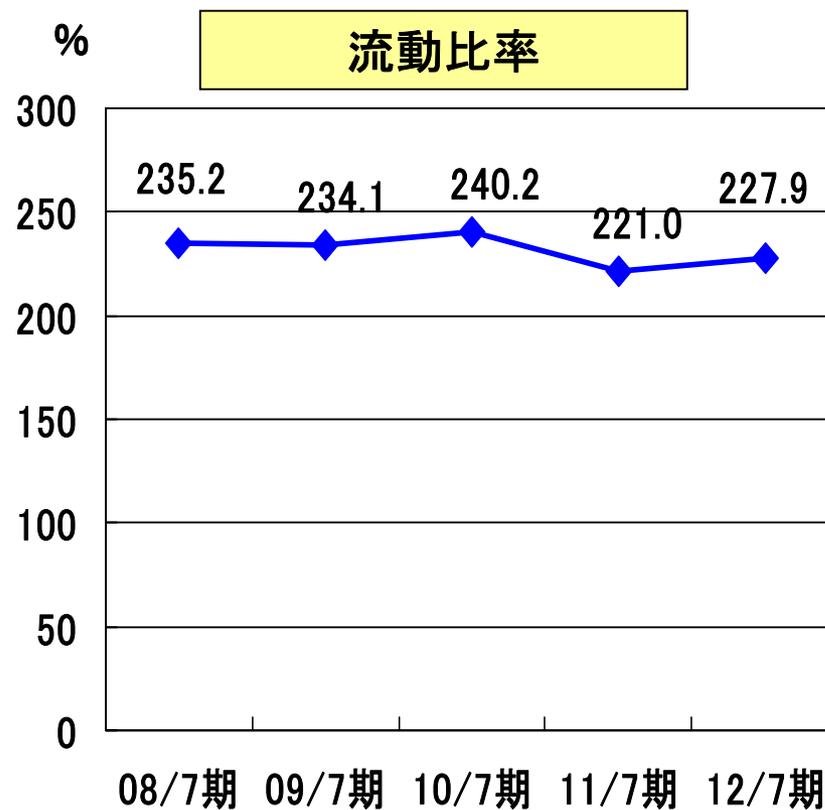
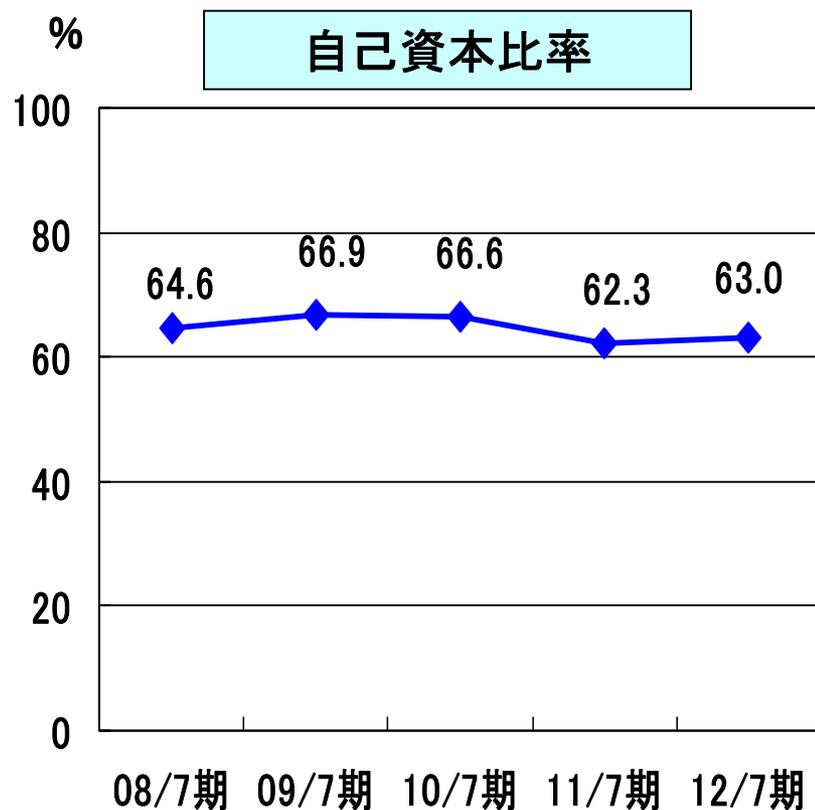


シリンジ

# 特徴－財務

## ⑤高い財務の安全性

無借金経営

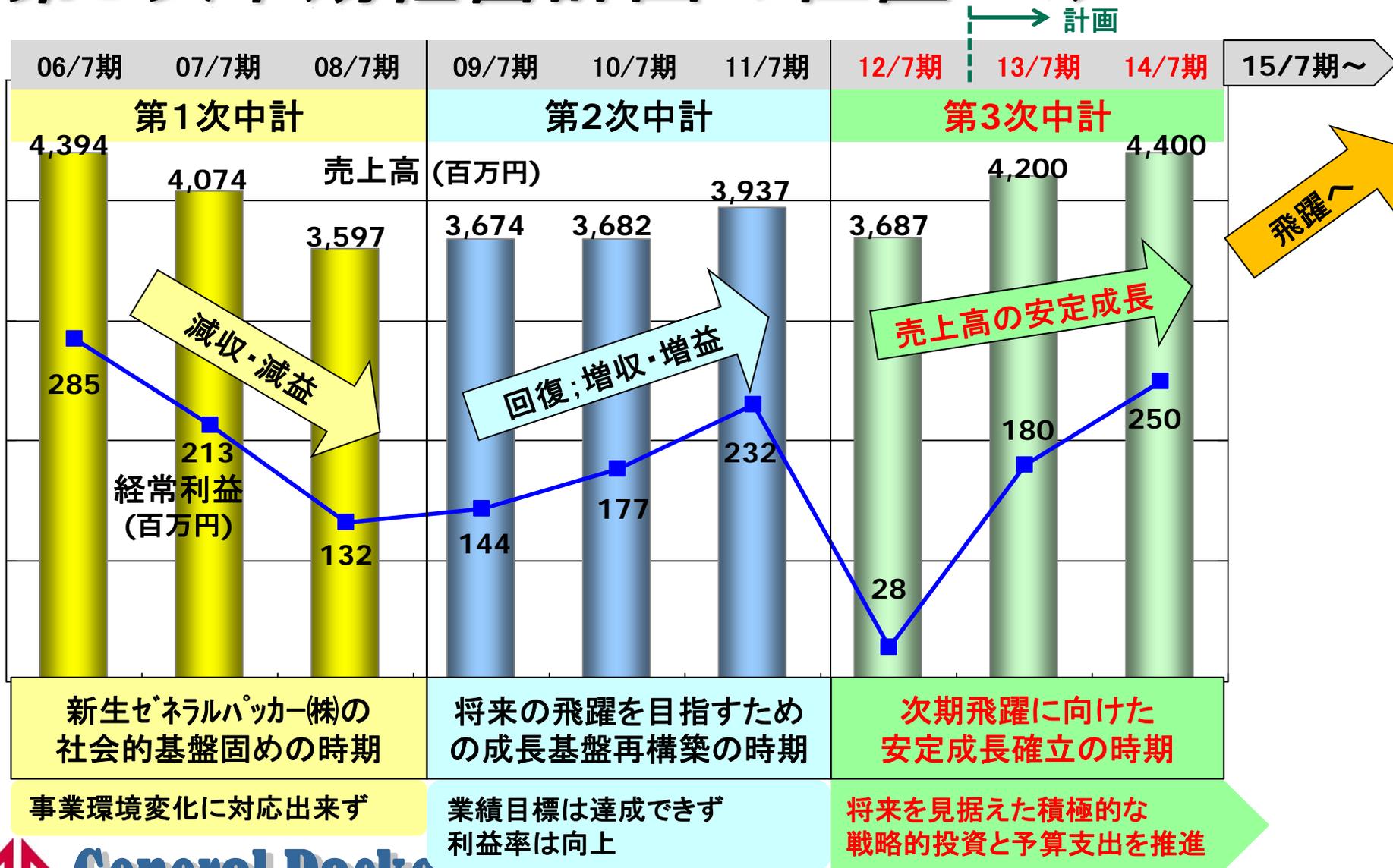


---

# Ⅲ. 事業戦略

## (中期経営計画ならびに業績動向)

# 第3次中期経営計画の位置づけ

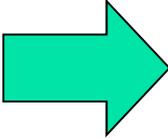
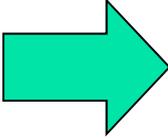


# 第3次中期経営計画(2012年7月期～2014年7月期)

## ◆中期経営ビジョン

1. 世界に信頼される包装機メーカー
2. 「なんとかしたい」にトップスピードで応えるトータルプランナー
3. 『創造と挑戦』のモノづくり企業

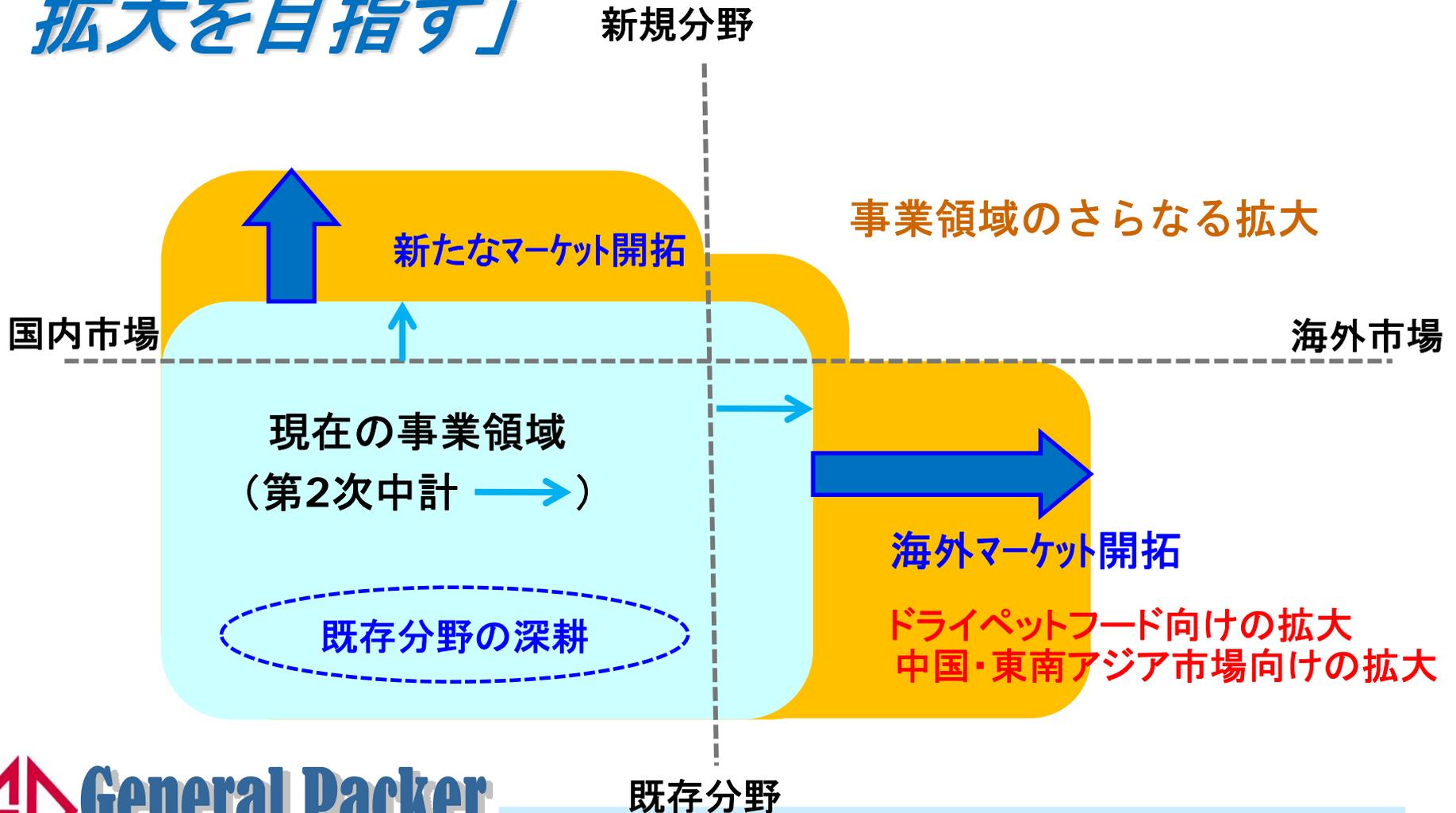
## ◆中期数値目標

	第2次中計最終期		第3次中計最終期
	11/7期実績		14/7期目標
売上高経常利益率	5.9%		5.5%以上
ROA(総資産経常利益率)	5.3%		5.5%以上
ROE(自己資本当期純利益率)	4.9%		5.0%以上
	11/7期実績		14/7期目標
売上高	3,937百万円		4,400百万円
営業利益	225百万円		245百万円
経常利益	232百万円		250百万円
当期純利益	138百万円		150百万円

将来を見据えた戦略的予算を増加させることから、  
利益率と利益額は同等レベルの目標としている。

# 基本戦略

「持続的成長に向けて事業領域のさらなる拡大を目指す」



# 基本戦略の取組み状況

## 第1期(2012年7月期)のトピックス

### ■海外販売体制の強化

- ・海外営業部新設(2011/10月)

### ■(株)ワイ・イー・データと資本業務提携(2012/1月)

- ・連携して商品開発、販売促進活動、海外市場開拓等を推進中

ロボット応用システム等

### ■積極的な広告宣伝・販売促進活動

- ・展示会出展を強化---過去最高の出展頻度

①大型出展 国内 2回(2011/10月、2012/4月)

②小規模出展 国内 2回、海外(上海) 1回

### ■事業領域拡大のための商品開発

- ・新たなマーケット向け 2機種を完成・売上(計3台)



### <2012年7月期業績>

#### ■4期ぶりの減収・減益

13/7期大幅回復へ

下半期国内需要の落ち込みに加え、将来を見据えた戦略的予算支出が増加。

#### ■機械受注高は前期比448百万円増、機械受注残高は前期比693百万円増

大型案件(1億円以上/件)の受注件数が増加



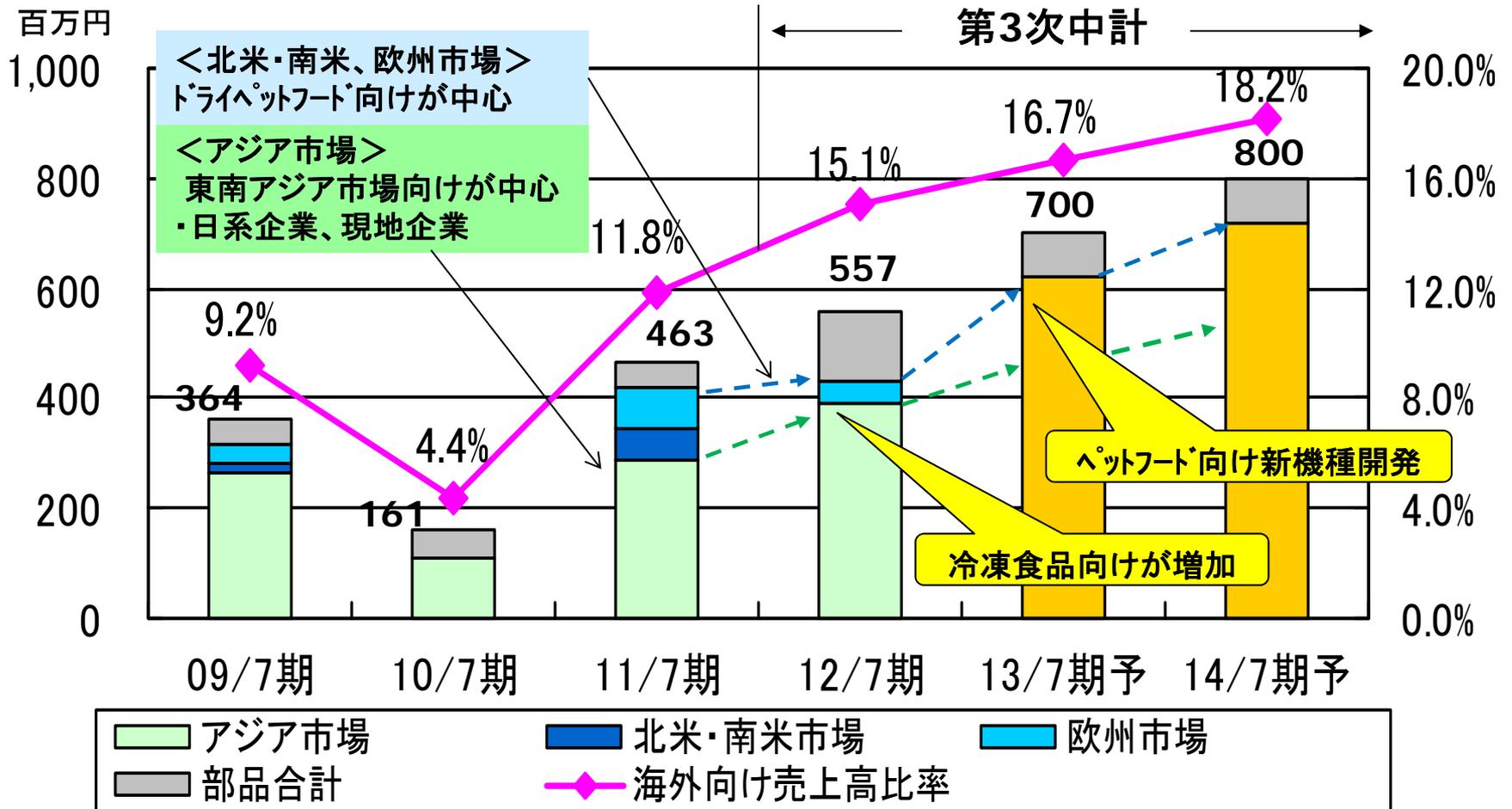
# 事業計画モデル(第3次中計)

売上高(単位:百万円)	11/7期実績	12/7期実績	13/7期計画	14/7期計画
<b>国内市場</b> (保守消耗部品含む) 新たなマーケット開拓	3,474	3,129	3,500	3,600
<b>内トータルシステム</b>	534	491	700	800
<b>海外市場</b> (海外部品含む) 海外マーケット開拓	463	557	700	800
	3,937	3,687	4,200	4,400
<アジア市場> 中国・東南アジア市場向けの拡大 ・新規窓口開拓 ・日系企業への重点営業			<北米・南米、欧州市場> ドライペットフード向けの拡大 ・更新需要 ・新機種開発、新規顧客開拓	

# 販売戦略 海外マーケット開拓

安定的に売上高比率15%以上の体制を目指す

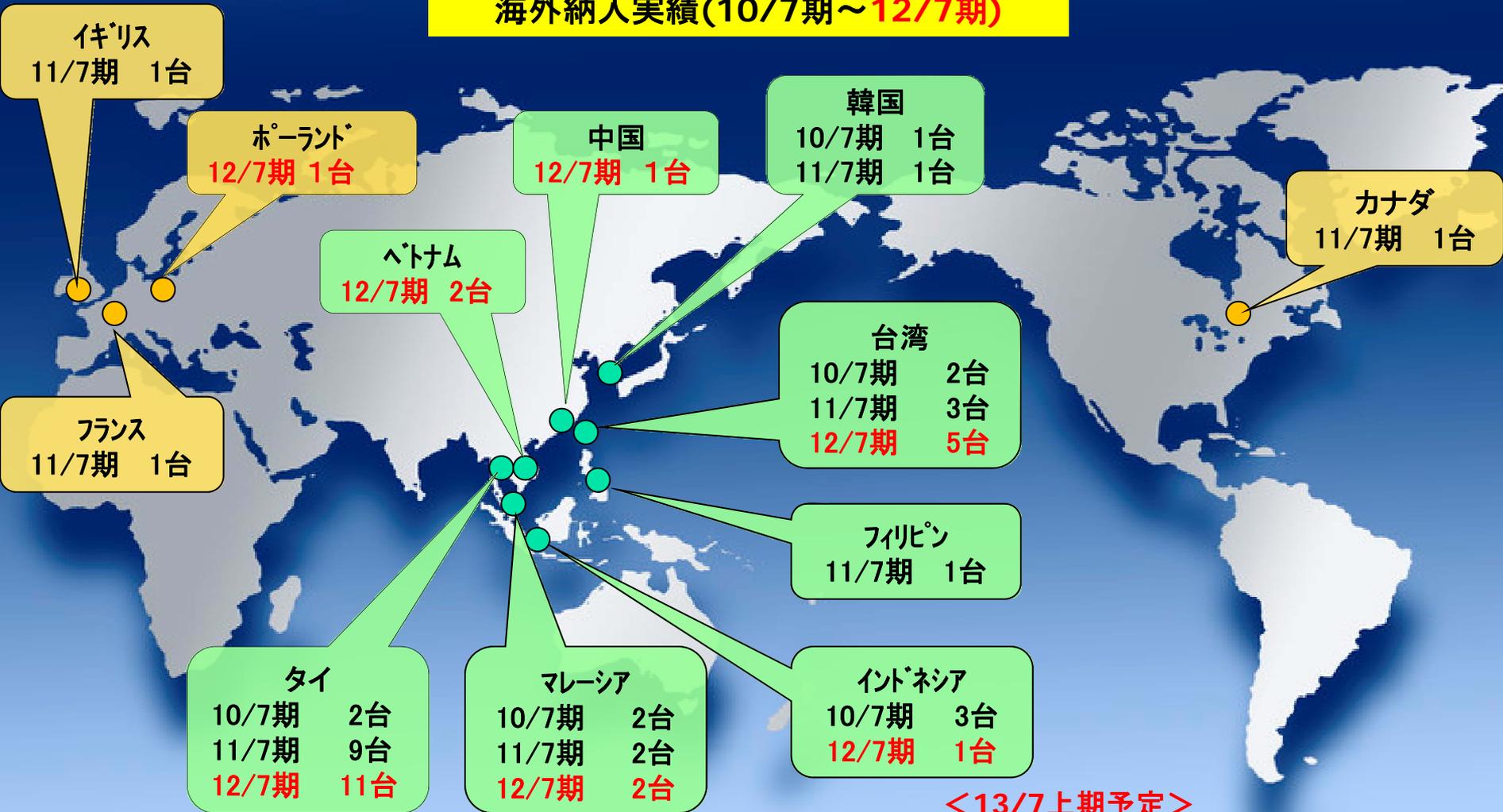
## ■海外市場向け売上高



※機械売上高;エンドユーザー地域別

# 海外市場向け 国別実績

海外納入実績(10/7期~12/7期)



<13/7上期予定>  
タイ、インドネシア、台湾

# 開発・技術戦略

事業領域拡大のための商品開発を強化する

## ■ 開発機種数・人員数

第3次中計 毎期 3機種以上へ

	9/7期	10/7期	11/7期	12/7期
開発機種数	2	2	2	3
開発・技術部人員	27	28	32	34



シーズとニーズの両面からの開発を推進中

## ■ 開発実績・計画(現在進行中の案件)

開発件数は過去最高ペース

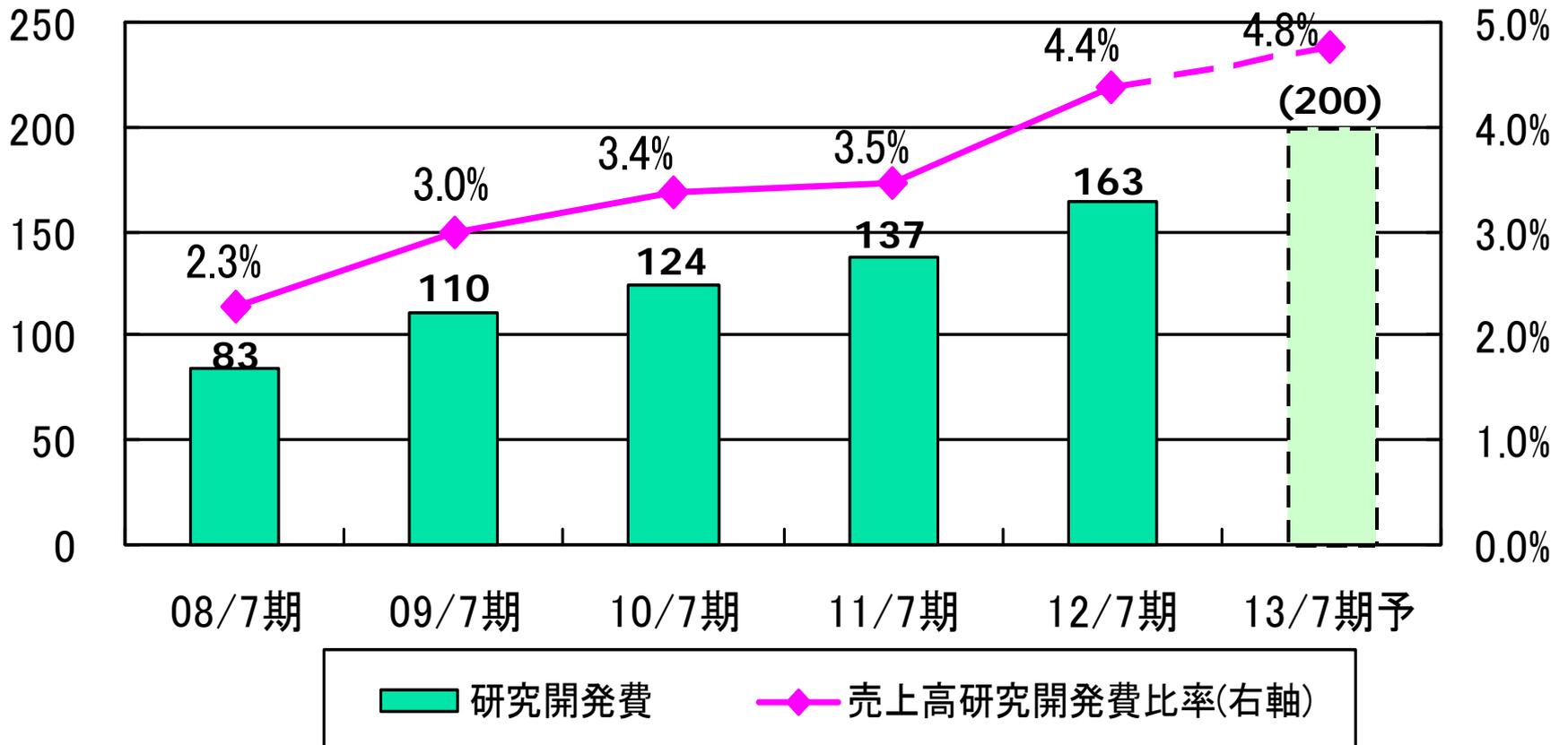
12/7期実績 (売上; 計4台)	既存分野向け 1機種	製粉
	新たなマーケット向け 2機種	酒造、海苔
13/7期計画 (完成・売上予定)	既存分野向け 4機種	食品全般、鯉節、製菓
	新たなマーケット向け 1機種	食品
	海外マーケット向け 1機種	ペットフード

収益の確保と2号機以降の拡販

# 研究開発費

開発部人員の強化、開発テーマの増加等により、  
売上高研究開発費比率は、13/7期も4%超の計画

百万円



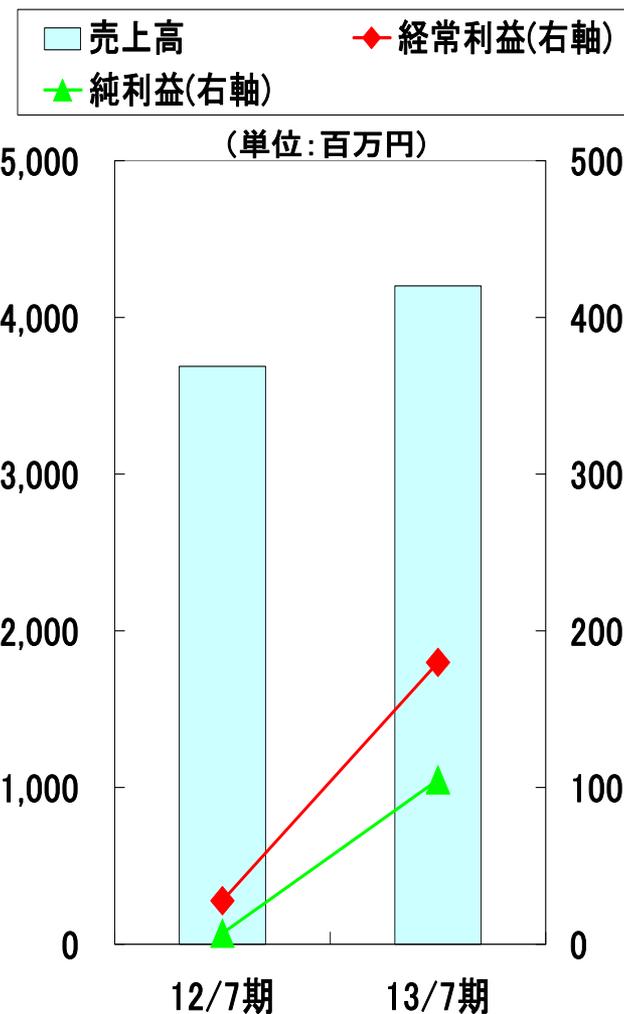
※研究開発費の内訳; 約5割が人件費

# 2013年7月期業績予想

販売台数と大型案件の増加により、増収・増益の見通し

(単位:百万円、%)

	12/7期	13/7期	前期比	
	金額 (構成比)	金額 (構成比)	金額	率
売上高	3,687 (100.0)	4,200 (100.0)	+512	+13.9
売上総利益	936 (25.4)	1,147 (27.3)	+210	+22.5
営業利益	39 (1.1)	178 (4.3)	+139	+353.5
経常利益	28 (0.8)	180 (4.3)	+151	+538.5
当期純利益	7 (0.2)	105 (2.5)	+97	+1247.4



# 株主還元

株主数;921名(2012/7月末現在)

## 中期配当政策

- 株主の皆様への積極的な利益還元を図ることを基本方針として、配当性向50%または純資産配当率(DOE)2%を目安に、安定配当を堅持しつつ、業績動向を見ながら配当金の増加を目指す。

	2010/7期	2011/7期	2012/7期	2013/7期予想
中間配当	3.50円	3.50円	3.50円	3.50円
期末配当	3.50円	4.50円 (記念配当1円)	3.50円	3.50円
年間配当	7円	8円	7円	7円
当期純利益/株	11.84円	15.83円	0.88円	11.85円
配当性向	59.0%	50.5%	791.8%	59.1%
DOE	2.2%	2.4%	2.2%	2.2%

## 自己株式取得

■ 2010年3月 取得株数 224,000株 取得金額 41百万円

# ホームページのご案内

http://www.general-packer.co.jp/



ゼネラルパッカー株式会社. 包装. 包装機. 包装機械. 自動包装機. 包装システム. 製袋. 袋詰. ケーサー. 充填機. ガス充填. 食品

文字サイズの変更 小 **中** 大

## GENERAL PACKER

サイト内検索

HOME ENGLISH CHINESE お問い合わせ サイトマップ プライバシーポリシー

商品案内 GPのメリット 課題解決事例 企業情報 トピックス IR情報 採用情報

### IR情報

- IR情報 TOP
- IRニュース
- IRポリシー
- 社長メッセージ
- 経営方針・戦略
- 財務ハイライト
- 決算・IR資料室
- 個人投資家の皆さまへ
- 株式情報・株主総会
- 株価情報
- IRカレンダー・期別IR資料
- FAQ
- 用語集
- IRお問い合わせ
- 電子広告
- IRサイトマップ

株主・投資家の皆さまへ  
**株主・投資家情報**

JASDAQ 名証2部 (証券コード: 6267)

HOME > IR情報

#### 社長メッセージ

メッセージと業績について  
代表取締役社長 梅森 輝信

#### 個人投資家の皆さまへ

ゼネラルパッカーのことを  
分かりやすくご紹介します。

ご挨拶

現在、『次期飛躍に向けた安定成長確立の時期』と位置づけた第3次中期経営計画(平成24年7月期～平成26年7月期)を推進中であります。  
第1期目となる平成24年7月期決算につきましては、下半期の国内需要が落ち込むとともに、積極的に戦略費用を増加させたことから、減収・減益となりました。一方、受注高は、大型案件の実績が増加したことから、前期を大幅に上回りました。第2期となる今期(平成25年7月期)は、高水準の受注強高により、増収・増益を予想しております。  
今後、海外市場と新分野の開拓を重要課題として、事業領域のさらなる拡大を図り、売上高の安定成長に取り組んでいきます。

平成24年9月4日

#### IRスケジュール

個人投資家のためのIRフォーラム2012 平成24年12月2日:東京証券取引所  
平成25年7月期第1四半期決算発表予定日 平成24年12月4日

#### IRニュース

2012/10/31 お知らせ 『個人投資家のためのIRフォーラム2012』【2012年12月2日:東京証券取引所】に参加いたします。

2012/10/26 会社情報 コーポレートガバナンス報告書

2012/10/26 決算情報 平成24年7月期有価証券報告書

# 包装システムの市場創造型トータルプランナー ゼネラルパッカー株式会社

## 当資料取り扱い上の注意点

当資料には将来見通しが含まれております。将来見通しは現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。この将来見通しは仮定または仮定に基づく根拠が含まれており、環境によっては想定された事実や根拠は実際の結果とは異なる場合があります。当社または当社の経営者は将来の結果についての期待または確信を述べていますが、その期待や確信、あるいはそれに近い結果が実際に達成されるという保証はありません。また法令上、別途の定めがある場合を除き、当社はいかなる将来見通しも最新のものとする義務を負っておりません。

【IR窓口】 経営企画室 長谷川  
〒481-8601  
愛知県北名古屋市長福寺神明65  
電話:0568-23-3111  
FAX:0568-22-3222  
E-mail:info@general-packer.co.jp

